

JOMON^{CITY}



縄文シティサミット in きたあきた

SUMMIT

1万年の造形力が、
未来の都市を創る
—縄文のココロとカタチ—

2026 **10.4** SUN
13:30~16:40 (開場13:00)

会場: **北秋田市文化会館**
住所: 秋田県北秋田市材木町2-3

入場無料
事前申し込み
不要

[スケジュール]

▶ 基調講演 13:45~14:30

立命館大学デザイン・アート学部

デザイン・アート学研究科 教授・副学部長 **中村 大氏**

縄文から未来をデザインする

—環状列石が教えてくれる地域のつながりとこれから—

▶ 首長討論 14:40~16:30

[第1部] カタチで魅せる縄文 ~インフラと食~

[第2部] ココロを繋ぐ縄文 ~地域づくりと人づくり~

◎コーディネーター: 中村 大氏

◎パネラー: 縄文都市連絡協議会 加盟都市首長

◎事例紹介: 伊勢堂岱遺跡に関わる人々



縄文シティサミットとは？

縄文都市連絡協議会（縄文遺跡がある市町24都市で組織）の加盟都市が連携し、縄文文化の魅力をまちづくりに活用することを目的に、1998年に青森県青森市からスタートしました。



JOMON CITY SUMMIT

in KITAAKITA

基調講演講師プロフィール

立命館大学デザイン・アート学部
デザイン・アート学研究科 教授・副学部長 **中村 大氏**

國學院大學文学研究科日本史学専攻博士課程後期課程 所定単位取得退学後、國學院大學文学部 助手に就任。その後、國學院大學考古学資料館 嘱託職員、MIHO MUSEUM 客員研究員（土偶展担当）、立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構（専門研究員、助教、准教授）等を経て、立命館大学共通教育推進機構 教授を努める。

〈これまでの実績・研究概要〉

私の専門は考古学です。縄文時代を対象に、人びとが遺した人工物（遺構・遺物）の統計解析やGIS（地理情報システム）分析を行い、人口増加と環状列石など大規模儀礼の出現との連動性を明らかにしました。そこから、儀礼は人間関係を円滑にすることで社会のレジリエンス（適応的再構築能力）を向上させる活動と解釈し、論理的なモデルを提案しました。このモデルはプロトタイピングに応用され、ロボットやAIの開発にも貢献しています。また、統計解析やGISの技術を活かし、近世文書研究や海外発掘調査への協力も行っています。



ACCESS 会場までのアクセス

🚆 鉄道でお越しの方

JR奥羽本線鷹ノ巣駅、秋田内陸線鷹巣駅で下車、駅舎を背にして一つ目の信号を左折し約300m直進。車で1～2分、徒歩で5～6分。

✈ 飛行機（大館能代空港利用）でお越しの方

- ▶ タクシー……大館能代空港からタクシーで約15分。
- ▶ リムジンバス…大館方面行きリムジンで約20分（鷹ノ巣駅前下車）。駅前から徒歩5～6分。

